

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401277		
法人名	医療法人 尚仁会		
事業所名	グループホーム「西まち」3階竹ユニット		
所在地	札幌市西区西町北8丁目1-25		
自己評価作成日	平成24年8月6日	評価結果市町村受理日	平成24年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

優しさは優しくしているつもりではなく、相手が感じとって初めて「優しさ」という言葉が使えるのだ。「優しさ」を伝えるためには一つ一つの動作に最後まで、その手を指を添えることで優しさは伝わるはず。人に対してだけでなく物に対して全ての動作に対して最後まで指を添えることで、落ちついた穏やかな環境の整えが出来る。そのような内容から当ホームでは「優しさは指先から」と指導しています。人生の先輩である高齢者に敬意をもち人として尊厳をもって対応する。その姿勢は理屈ではわかっているが実行出来ているか? 問いただし再確認し実行中です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kan=true&JigyosyoCd=0170401277-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年9月3日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は地下鉄から徒歩3分、バス停前という交通の便に優れた商業地域に立地している。3階建て鉄筋コンクリートの2、3階部分がグループホームで、1階には協力医療機関であるクリニックが併設され、迅速かつ丁寧な医療が提供されている。管理者は、職員と共に利用者一人ひとりの身体・精神状況に応じたきめ細やかな介護サービスに努め、終末期ケアや看取りについても、医師、看護師、職員と連携して、本人、家族の思いに最大限応えている。利用者は個別の誕生会や毎月の外出行事、日々の健康体操に参加する事を通して、穏やかな中にも楽しみや変化のある生活を送っている。年間行事計画を策定し、運営推進委員会、家族会、夏祭り等の確定行事については、年度初めに関係者に説明し、地域、家族、関係機関とのスムーズな連携体制を築いている。家族への個別連絡を毎月書面で行う他、必要時には随時電話連絡を欠かさず、家族との関係は極めて良好で、面会に訪れる家族も多い。運営者及び管理者は、研修参加や資格取得をバックアップして職員のスキルアップを図るとともに、積極的に実習生を受け入れ、地域介護者の育成及びケアの質向上に取り組んでいる。職員配置を厚くし、職員の育休取得を奨励するなど職場環境への配慮が充実しており、職員の長期雇用に繋がっている。管理者、職員がともに利用者一人ひとりの尊厳を尊重しつつ、過ごしやすい環境への配慮と、有する能力に応じた適切な介護サービスの提供に邁進する事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時には職員全員で唱和し、理念の意味を共有、その日の業務につなげている	「心からの笑顔、穏やかに安心出来る環境整備、個性の重視、地域との協同」を理念に掲げ、毎朝唱和して共有し、介護実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会・ホーム共に行事の際には参加しあえる関係が続けている	町内会に加入し地域清掃に参加する他、ホームの夏祭りや防災訓練には地域住民が積極的に参加し、相互に協力し合える関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会(老人クラブ等)では「高齢化社会の現状と施設について」の講演をさせていただいた		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議開催し経過報告と意見を活かして行っている 時に、ホームの日常を見ていただくこともある	2ヶ月毎に地域包括職員、家族、地域住民、事業所職員を構成員として会議を開催し、記録している。行事、避難訓練等について話し合い、討議内容を運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	密とはいえないが不明な点や困難時には連絡をとっている	グループホーム連絡協議会に出席して情報交換している。また、運営上疑問な点は市の担当者に随時相談して、助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束禁止の行為は全職員に対し学習会や又機会があることに指導し理解を深めている	内部研修や外部研修に参加し、職員全員が身体拘束について正しい知識を有している。日々の介護においても行動抑制に繋がっていないかを職員同士で確認しあい、身体拘束のないケアを実践している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束禁止同様、機会あることに指導した施設外研修にも積極的に参加し理解を深めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がいるため制度のパンフレットを活用し職員には説明し理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には時間をかけて納得いくよう説明している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月毎に家族会を開き意見交換の場をもうけており、日常も話しやすい環境は出来ている	家族会を3か月毎に開催し、意見や要望を聞く機会を設けて運営に反映させている。毎月個別の介護記録を作成して利用者の状況を報告し、意見を聞いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回学集會を設け、業務に関することなどの勉強や意見・提案のやり取りをしている	月2回の学集會で、業務内容や行事等について意見交換する場を設け、職員の意見や提案を運営に取り入れている。個別面談を行って、個々の職員との意思疎通に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金の活用や資格手当てや有休活用等就業環境は整えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に関しては内外共に積極的に行っています。働きながらのトレーニングも積極的に行い、一人ひとりの技術向上を後押ししている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は管理者会での交流会・講演会を通じ交流の場を利用し質の向上に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の段階で本人の希望や不安など聞き安心出来る環境である事を理解していただく		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のホーム見学や中の雰囲気を知っていただく事から始め家族の話も時間をかけて聞くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人との面談を行い家族も含め対応を考えるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状況に応じ、共に日常生活における作業を行ったり、体操・歌・会話など毎日行うことにより馴染みの関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来所時には本人と過ごす時間を大切にしている 家族への近況報告・相談はもちろん、変化のあった時にはすぐに連絡し共に本人を支えていくよう努力している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力も得て外出・外泊ができたり又来所の回数を多くして頂くようお願いしている	家族の協力を得て墓参りや外食、外泊ができるよう支援している。馴染みの理容院に出かけるなど、本人の希望を重視した支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員が楽しんで参加できる体操や歌・レクには日には何度か集まる時間を持ちコミュニケーションを計っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去の退去者の中で1名の「在宅への退去者」がいます。外来受診の度にホームに立ち寄り状況報告をしてさりげないアドバイスをさせていただいている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思をできるだけ優先し、困難な時は様々な状況・情報から支援を検討している	言葉や動作から本人の思いを把握するよう日頃から努め、困難な場合には家族から情報収集して、安心・安楽な暮らし方を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努	面談時での情報収集とセンター方式でのアセスメントを活用			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の体調・様子・言動など、その日の担当スタッフが記録に残し申し送ることで情報を共有し対応するよう努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの情報や本人の現状をカンファレンスで介護計画やモニタリングしている	担当制を導入し、ユニット毎に担当者、関係職員がケアカンファレンスを行い、家族の意見を取り入れた介護計画を作成している。短期目標の期間に応じてモニタリングをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は午前・午後に分け記録し又状態変化にも記録し情報は蜜に共有している			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ・家族が共に協力し合い本人の意思を尊重した対応している			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	演芸やお祭り等には活用し協働している			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族には必要な医療の説明を蜜にし納得していただき支援している	1階の協力医が月2回定期診療をし、利用者の健康管理を行っている。24時間、相談・受診が可能である。希望に応じて訪問歯科も利用できる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であるため日常的に適切な対応がとれる			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書提出し退院時にはカンファレンスに参加し情報を得ている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や家族会等機会ある事において説明を行い医師・看護師・スタッフの連携がとれるようになっている	利用時に重度化した場合の対応について十分説明するとともに、家族と看取り介護に関する同意書を交わし、全員が方針を共有しながら終末期の支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に実践的な動きが出来るかどうか？しかし定期的に研修参加や学習会を行っている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々参加の防火訓練を年2回行い協力体制はできている	年2回、夜間想定避難訓練を実施(うち1回は消防立ち会い)し、地域住民との協力体制を年々強化している。防火壁、緊急通報装置、スプリンクラーが設置されている。	今後は利用者の避難誘導終了が一目で分かる工夫や、毛布・食品等災害用備蓄品の確保を期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思を尊重した声掛けや言葉使いに注意し、話が理解できるようなやりとりを心がけている	職員は利用者に敬意をもって対応し、言葉かけや介助の仕方も誇りを損ねない接遇に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの中で本人がどうしたいかは常に聞くようにし、自己決定できるよう待つことを心がけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の状況に応じ、その日取り組めそうなことを支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔で身だしなみに気をつけ、定期的に出張美容室も利用してもらっている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に合わせ調理に参加したり片付けをしている	個人の力量に応じて調理や片付けをしている。希望に応じた献立や外食の機会を設ける他、咀嚼・嚥下機能に配慮した食事提供をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェックは1日トータルだしている 又状態や好みに合わせた栄養バランスを考えて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを	毎食後行っており又舌苔の状態も確認し、時には介助する 義歯の消毒も毎日実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせ時間をみてトイレ誘導している	利用者の排泄パターンを把握して時間誘導したり、発するサインを見逃さずに誘導して、可能な限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操に加え水分・ヨーグルト・おからクッキー等の摂取で予防している(効果あり)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回を目安に本人の体調を考慮し本人の希望を確認している	週2回を基本とし、希望や体調、タイミングに応じて入浴を支援している。シャワー浴、全身清拭や手浴、足浴等組み合わせることで保清に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る時間を強制することなく個人にペースを優先している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の体調管理のもと常にカンファレンスで確認できる体制である		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性に合わせた役割又全員で楽しめることを日々支援している 毎月末の「お楽しみ食」では利用者の希望を盛り込んだり、時には外食に出掛けることもある		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は年間計画を立て出掛けている 又必要に応じ家族の協力のもと個々に外出している	季節毎の外出行事に加えて、希望に応じて近隣スーパーへの買い物、日光浴、家族との外出等できるだけ戸外に出かけられるよう支援している。 ホーム主催の夏祭りは地域住民と交流しながら楽しんでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からの預かり金はホーム管理とし必要に応じ使えるようにしている お金の収支は毎月家族に確認していただいている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は本人の希望通りに支援している			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の窓が広いため外を見ると季節感を感じている 又居間には季節に合わせた飾りつけをしている。混乱を引き起こす刺激になる要素には十分配慮している	共用空間は明るく清潔で、季節感のある装飾が施されている。職員は、空気のよどみ、直射日光、刺激となる不快な音に注意し、穏やかな環境で過ごせるよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの生活習慣を理解し配慮している			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって馴染みの物、実際に自分で管理出来る物、あると安心する物の中で過ごせる居室造りをいただいている	居室には、それぞれが使い慣れた家具や仏壇、家族の写真、思い出の品などを自由に持ち込み、安心して過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること・わかることを理解し安全に生活できるように工夫している			